

ふりかえろう やりたいこと できること

地域デビューにあたり、ご自身をふりかえってみましょう。
「自分にできること」ってどんな事があるのでしょうか？
地域デビューのコツは、やりたいこと、できることを
はっきりさせることです。

やりたいこと	できること

趣味、特技

活動事例

高齢者の話し相手	車送迎(高齢者など)	高齢者サロンの手伝い	子どもの遊び相手
乳幼児の子守り	学区内パトロール	折り紙	お手玉
手品・演芸	囲碁将棋	楽器演奏	童謡・唱歌をうたう
朗読・読み聞かせ	文化伝承	趣味の指導	料理づくり(食事・お菓子)
魚やイカさばき	包丁とぎ	日曜大工	タイヤ交換
雪かき	花木の水やり	草取り	庭木の手入れ
農業の手伝い	里山・公園の手入れ	森林の下草刈り・伐採	観光ガイドや受付
スポーツ教室運営手伝い	経理の手伝い	広報・チラシ作成	図書館運営

ボランティア・社会貢献活動に関するお問い合わせは…

最寄りの市町村社会福祉協議会ボランティアセンター

もしくは

鳥取県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターへどうぞ。

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 県立福祉人材研修センター内

TEL 0857-59-6332 FAX 0857-59-6340

E-mail vc@tottori-wel.or.jp URL <http://www.tottori-wel.or.jp>



鳥取県ボラセンキャラクター「はーちゃん」

ボランティアで輝く スーパーライフのすすめ

ボランティア活動にはさまざまな分野・領域があり、中には専門的な知識や技術が必要な活動もありますが、大半の活動は、日常の活動や趣味の活動に社会貢献の要素を少しプラスすることで生まれます。

さまざまな経験を重ねてきた今だからこそ、築いてきた知識や技能を地域でのボランティア活動に生かしながら、一層輝く“わたしだけのスーパーライフ”を見つけませんか。

鳥取県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター

社会的な期待の高まり

高齢社会、地域コミュニティの崩壊等、さまざまな生活課題が噴出する中、暮らしやすいまちを市民の手で作っていくための推進役として、団塊の世代の退職後やシニア世代の今後の暮らし方に関心が集まっています。鳥取県でも55歳～60歳の団塊の世代及びその周辺世代の人口は、県人口の8.6%を占めており、この世代が定年退職後にどのようなライフスタイルを選択し、どのような活動を行なうかは、今後「暮らしやすいまちづくり」を推進していくための大きな鍵となります。

定年退職後、生活の基盤を会社から地域社会に移すことを「地域デビュー」と呼んでいます。その地域に住んでいるだけの「地域住人」から地域に自分の居心地の良い場所を見つけ、地域の中で役割を持って暮らしている「地域生活者」なるための「はじめまして、よろしく」の機会です。

「地域デビュー」はそんなに重要な？そんな声も聞こえてきます。人生80年。90年。シニアライフと呼ばれる時間はたっぷりあります。だからこそ、そのときを自分らしく充実したものになりたいと誰もが思うのではないのでしょうか？

なかでも、長年会社勤めをしてきた方にとっては、ようやく自分が自由に使える時間に対する期待は大きいと思います。「地域デビュー」は難しいものではありませんが、スムーズに地域に降り立つためには、ちょっとしたコツや心構えが必要です。

地域との新しいつながり「地域デビュー」

定年後、いきいきとボランティア活動をしているシニアに話を聞くと「定年前から行動を起こしたほうがいい」と、みな口を揃えます。

もちろん現役で仕事をしている間は、時間もそう自由にはならないと思いますが、週末を利用して活動を始めてみる、また、本格的にボランティア活動始めるのは定年後だとしても、ちょっとボランティアセンターに足を運んでみたり、関連する資格等があれば取得を目指して勉強を始めてみたりなど、何か動けることがあるはずですよ。

助走をつけておくことは、シニアライフのスタートをスムーズにするための大きな力になります。あせる必要はありませんが、自分の定年後を描き、できる範囲で始めてみませんか。

定年前から“助走”を始める

コラム ボランタリーな一日

「ボランティアに興味はあるけど、実際に活動を始めるとなると時間がないからなあ。」そう考えて活動を始めるのを躊躇されてはいませんか？

例えば、メタボリック対策で始めた朝のジョギングに子どもたちへのあいさつ運動(登校見守り)をプラスしたり、毎日の犬の散歩に防犯パトロールをプラスしたり。生活パターンに少しプラスすることで時間は案外作れるものです。



地域で活動をしている方は、どうしてボランティアを始められたのでしょうか？ボランティア活動のポイントや活動始めるヒントを伺いました。

活動事例

特定非営利活動法人 賀露おやじの会 理事長 藤田 充さん

活動を始めたきっかけ

私たちは、1997年に子供会活動での「科学遊び広場」の開催をきっかけとして賀露小学校保護者の父親を中心に集まり、毎年数回、遊びを通じた科学実験教室などを開催してきました。会員の職業は、大工、造船業、鉄工業、漁業など様々です。

活動にあたっては、地域の企業、団体、自治会、賀露小学校、賀露小教育振興会などが連携することが重要であることを知り、2002年1月に特定非営利活動法人賀露おやじの会を設立しました。

今では、賀露地区のみにとどまらず地域の大学、県内外のNPOやおやじの会と連携しながら、環境保全活動、地域づくり活動、子どもの健全育成などに取組んでいます。

特に心に残っている活動

平成12年2月 スペースシャトル「エンデバー」公開反射実験

スペースシャトル「エンデバー」から発信される電波をアルミ箔を貼った箱に反射させ、これを受信することにより地球の観測図面に「カロ」の文字を浮き上がらせました。

平成13年～ おやじたちの科学出前講座

小学校の保護者と子どもたちが科学実験を通じて楽しく遊びながら、未来の地球や地域の環境について考える取り組みです。

平成14年～ 中学生ダッシュ村森林教室

森林整備活動を通じて山の仕事や木とふれあうことにより、森林の役割やそこで活動している人たちの苦勞を体験するものです。

平成17年2月 とっとりおやじ連設立

県内のおやじの会の情報交換ネットワークを設立しました。

平成18年9月 第4回全国おやじサミット in ととりの開催



これから活動を始められる方にメッセージ

私たちが幼い頃、町中を歩けば必ず口うるさい「おやじ」と出会いました。いたずらをすれば後ろから頭を小突かれ、夢中で走り回れば遠くから「こりゃ！危ないがないや！」と「もがられ」（怒鳴られ）、「あそんどらずに（遊んでいないで）宿題せんかいや（しなさい）」、「今日は〇〇ちゃんの姿がみえんけど病気じゃあらへんなあ」と呼びかけるおやじたちの姿は、日常の光景でした。あの時代、地域で動いていたおやじたちは、特に意識しているわけではなかったのですが、確かに子どもたちの成長を見守っていたのです。

今日の経済活動は確実に環境の悪化を招き、産業構造の変化は地元人間関係にも影響を及ぼしています。多くのモノに囲まれた生活や心の交流が見えない地

域の中で、口うるさいおやじの姿も無くなり、子育ては両親のみの役割となってしまいました。両親が忙しくなればなるほど、子どもたちと地域のつながりは希薄となります。そして、私たちが覚えている「ふるさと」のぬくもりややさしさを思い出すといったことも無くなってしまおうでしょう。美しい自然環境や昔から受け継がれてきた人間味ある社会環境を私たち大人がどのようにして子どもたちに引き継いで行くのか、その明確な答えを持ってないまま21世紀を迎えなければならなかったことに、私たちはたいへん心を痛めています。行政・教育機関に意見し、お願いすることも一つの方法ではあるのですが、文句を言うおやじより汗を流すおやじを見てもらうことが大切だと考えております。

私が活動しているグループ・団体はこんなところですよ

- 団体名 特定非営利活動法人賀露おやじの会 所在地 鳥取市賀露町南5丁目2433番5号
- 参加人数 15名 活動日 不定期
- 活動内容 (1) まちづくりの推進を図る活動 (2) 環境の保全を図る活動 (3) 子どもの健全育成を図る活動 (4) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動